

シャクナゲも
ツツジの仲間だよ



アズマシャクナゲ
【5-6月】

大輪の淡いピンク色の花が目立つ。
葉の裏には灰褐色の軟毛を密生する。



ハクサンシャクナゲ
【6-7月】

アズマシャクナゲより1ヶ月ほど遅く咲く。
浅間園にはこちらのほうが多い。



ツガザクラ
【5月】

6-7ミリの淡いピンクの
鐘型の花が群落をつくる。



コメバツガザクラ
【4-5月】

春先早くから咲き始める。
名前は葉の形が
コメに似ていることから。



ミネズオウ
【4-5月】

星型の淡いピンク色の花。
ガンコウランと
同じような場所で咲く。



ガンコウラン
【4-5月】

春先に咲く赤い花は
目立たないが、
6月頃に黒く丸い実をつける。



コケモモ
【5-6月】

浅間園では花は6月が見頃。
7-8月にかけて
赤い実が見られる。

みどころ 1 溶岩地帯は ツツジ・パラダイス!

浅間高原の初夏を代表するレンゲツツジをはじめ、浅間園内にはたくさんのツツジ科の植物が自生しています。私たちにとって見慣れた花であるこのツツジですが、ではなぜこの場所にツツジが多く見られるのでしょうか。

ご存知のとおり浅間園一帯は、1783年の浅間山の噴火による噴出物に覆われています。溶岩や火砕流の堆積物により、地表は草木のない岩場や砂礫地となり、植生の遷移としてはいったんゼロにリセットされてしまいました。そこにまずコケ植物や地衣類が侵入し、それらの遺骸が土壌を形成します。薄い土壌ができると、草原や明るい陽を好む陽樹の低木林が現れます。ツツジの仲間もこうした遷移の初期に現れる先駆樹種（パイオニア樹種）のひとつです。

また、ツツジ科の植物は酸性土壌にも強いので、酸性度の強い火山帯でも育つことができます。ツツジの楽園である浅間園は、荒れ地が森林へと移り変っていく長い遷移の始まりの姿を観察することができる貴重な場所なのです。



ヒカゲツツジ
【4-5月】

ツツジのなかでも時期が早く
4月下旬から咲き始める。



トウゴクミツバツツジ
【5-6月】

吾妻渓谷などで見られる
ミツバツツジが雄しべ5本なのに
対してこちらは10本。



アズマツリガネツツジ
【5-6月】

別名ウラジロヨウラク。
ピンク色の花が釣鐘状に咲く。



ホツツジ
【8-9月】

夏の終わりに白やピンクの花が
枝の先に穂のようにつく。



足元にもツツジの
カーペット!

こんなに小さい花々も
ツツジの仲間です。養
分の少ない岩場でも横へ横へ
と広がりながら根を張るけな
げな姿が印象的。



コケモモ
【5-6月】

浅間園では花は6月が見頃。
7-8月にかけて
赤い実が見られる。



vol. 14

初夏の浅間園で 高山植物ウォッチング

[長野原町営浅間園 自然遊歩道]

レンゲツツジ
【5-6月】

初夏の高原を鮮やかなオレンジ色で
彩るレンゲツツジ。有毒のため牛や
動物たちが食べず、浅間山麓にも群
落が多い。浅間園内では博物館裏手
に群落があり、溶岩をバックにした
景色が楽しめる。

浅間山の直下に位置し、荒々しい鬼押し溶岩が広がる浅間園。
園内の溶岩の間を巡る遊歩道やサイクリングコースの周辺には、
初夏から秋にかけて、高山植物が次々と花を咲かせます。
浅間園のすごいところは、登山家たちが憧れる希少な植物の数々に、
お散歩気分であげで出会ってしまうこと!
今回は、そんな高山植物観察がさらに面白くなる、
見どころや特徴などのポイントをご紹介します。



イワカガミ 【5-6月】

溶岩などの岩場に咲き、登山家のなかにファ
ンも多い高山植物。浅間園では遊歩道沿
いのあちこちで見られる。常緑の多年草で、
冬場は独特のツヤのある葉が赤っぽくなる。



イブキジャコウソウ
【6-7月】

カーペット状に咲く紫色の可憐な
花。シソ科の小低木で、ハーブの
ような良い香りが広がる。

おもな花の見頃カレンダー



花名	4月	5月	6月	7月	8月
コメバツガザクラ		→			
ミネズオウ		→			
ヒカゲツツジ		→			
イワカガミ		→	→		
ツガザクラ		→			
トウゴクミツバツツジ		→			
レンゲツツジ			→	→	
ハクサンシャクナゲ			→	→	
クロマメノキ			→		→ 実の色づき
イブキジャコウソウ			→		



◎写真提供&ガイド

嶋村明さん
浅間園ボランティアガイド
浅間山北麓ジオパーク運営委員

◎今回訪れたのは…長野原町営浅間園

今回ご紹介したのは、園内で見られる植物のごく一部です。このほかにも秋までの期間、様々な高山植物に出会えますので、時期を変えて訪ねてみてください。自然遊歩道には入園料100円(小学生以上)がかかります。浅間園サポーターズによるガイドもご利用ください。(お問合せ:0279-86-3000)

参考文献:「浅間高原の植物」(発行:長野原町営浅間園)、「浅間山の観察手帳」(発行:浅間火山博物館)

長い歳月を経て大部分が失われ、三十数体が遺るのみであったが、平成三年に地元の人々により百体に復元され、現在は桜岩地蔵堂境内に安置されている。この地域に住む人の優しさによって建て

北軽井沢地区の六里ヶ原は、天明三年(一七八三)の浅間山噴火により、一面が砂原となった。災害による交通への影響は甚大であった。風が吹けば道は消え、雪が降れば旅人は方位を失い、死人が出ることもたびたびあったという。

そのような状況を見かねた分去茶屋の助四郎は文化五年(一八〇八)、往来する人々の旅の安全を願って勸化(かんげ)を行い、近隣の人々の寄進により道しるべ観音の設置を行った。観音は分去茶屋を基点として沓掛(くかけ)、狩宿(かりやど)、大笹(おほざさ)の道路沿いに一番観音から三十三番観音まで三十三体建てられ、それに

ふるさと再発見

[14] 文化財だより



※勸化…仏寺や仏像を建造するために寄付を募ること



られ、後世に伝えたいという想いによって遺された町の文化財。一度訪れてみてはいかがだろうか。次号は【防空監視哨(聴音壕)】を紹介しします。

【六里ヶ原の道しるべ観音】



みどころ 2

林床にひっそりと咲く花たち

サイクリングコース周辺など、日光のあまり当たらない林床や木陰にも、そのような環境にあった植物が見られます。新緑とともに、可憐な草花を探しながら歩くのもおすすめです。



シロバナエンレイソウ [4-5月]

花が大きく目立つので、早春の林床を代表する草花。



ゴゼンタチバナ [6-7月]

白い花びらに見えるのは総苞片。秋には赤い実を熟す。



コバノイチヤクソウ [6-7月]

イチヤクソウの仲間だが、イチヤクソウに比べて葉はツヤがない。



ベニバナイチヤクソウ [5-6月]

赤味を帯びたイチヤクソウで、見事な群落をつくることある。



ギンリュウソウ [5-6月]

暗い林内に生える腐生植物。別名ユウレイタケ!

みどころ 3

どの花がどの実をつけるかわかるかな!?

浅間園内では、花だけでなくさまざまな実をつける植物にも出会えます。花と実を結びつけてみましょう!



クロマメノキ [花:6月/実:7月~] 浅間ブルーベリーとしてよく知られる。



シラタマノキ [花:6月/実:7月~] 実や葉からはサロメチールのような香り。



コケモモ [花:5-6月/実:7月~] 実にはジャムや果実酒にも使われる。



オオカメノキ [花:5月/実:7月~] まだ芽吹かない林のなかで白い花が目立つ。



マイヅルソウ [花:5-6月/実:7月~] 葉はハート形。実は小鳥たちの大好物。

